

公立大学法人長野県立大学
第 1 期中期目標の期間における業務の実績に
関する評価結果報告書

(中期目標の期間：平成 30 年度～令和 5 年度)

令和●●（202●●）年●●月

公立大学法人長野県立大学評価委員会

中期目標の期間における業務の実績に関する評価について

公立大学法人長野県立大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）に基づき、公立大学法人長野県立大学（以下「長野県立大学」という。）の第 1 期中期目標の期間の業務の実績について、中期目標・中期計画に定められた項目の達成状況について評価を行った。

I 評価の基本方針・評価方法

1 評価の基本的な考え方

- (1) 評価は、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的にを行い、法人の中期計画の進捗状況を評定するものとする。
- (2) 評価は、教育研究の特性、自主性・自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (3) 評価の一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、地域社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 中期目標の達成を確保する上で、支障となると考えられる業務運営上の課題を明らかにし、業務の改善・充実に資する。
- (5) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや、次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。

2 評価方法

評価に当たっては、「公立大学法人長野県立大学の業務実績評価に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）及び「公立大学法人長野県立大学の中期目標の期間における業務の実績に関する評価に係る実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて実施した。

3 評価の手順（実施要領から抜粋）

評価は以下のとおり実施した。最終的な評定は、評価委員の合議により、意見をまとめ、評価を行った。

(1) 項目別評価

ア 小項目別評価

- ・評価委員会は、公立大学法人長野県立大学から提出された「公立大学法人長野県立大学の第 1 期中期目標の期間の業務の実績に関する報告書」等について、法人関係者からのヒアリング等により検証を行った。
- ・法人の自己点検評価の結果を踏まえて、達成状況を実施要領別表 1 に定める中期計画の小項目ごとに、実施要領別表 2 に定める評価基準により、「s、a、b、c、d」の 5 段階で評価を行った。
- ・なお、法人による自己点検評価の結果と評価委員会による評価の結果が異なる場合には、その理由を示すとともに、必要に応じて、大学の教育・研究等の質的向上、大学経営の改善の促進につながるよう、特筆すべき点や計画の達成状況が不十分な点等についてもコメントを付すものとした。

イ 大項目別評価

評価委員会は、小項目別評価結果を踏まえ、実施要領別表 1 に定める大項目ごとに、実施要領別表 2 に定める評価基準により、中期計画の達成状況について、「S、A、B、C、D」の 5 段階で評価を行った。

(2) 全体評価

評価委員会は、全体評価に当たって、大項目別評価の結果を踏まえ、実施要領別表 2 に定める評価基準により、中期計画の達成状況の全体について総合的に評価を行った。その際、長野県立大学の活動全体について記述式で評価を行った。

別表 1：期間評価における評価項目

評価区分	評価の対象、内容等
小項目別評価	中期計画の第 2 から第 6 の最小項目として記載されている各事項の中期目標の期間の達成状況 ※中期計画の第 7 から第 12 に係る実績は、全体評価の参考情報として用いる。
大項目別評価	小項目別評価を踏まえた中期計画における 5 つの大項目（11 区分）ごとの達成状況
	1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 【教育に関する事項】 (1) 人材育成の方向
	2 (2) 入学者の受入れ
	3 (3) 教育の質の向上
	4 (4) 学生への支援
	5 【研究に関する事項】
	6 【地域貢献に関する事項】
	7 【国際交流に関する事項】
	8 業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置
	9 財務内容に関する目標を達成するためとるべき措置
	10 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置
	11 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置
全体評価	項目別評価を踏まえた中期計画全体の達成状況

別表 2：期間評価における評価基準

評価区分	評定	評価の基準	評価の目安
小項目別評価	s	中期計画を大幅に上回って達成している	特に優れた実績を上げている (評価委員会が特に認める場合)
	a	中期計画を達成している	中期計画を達成している (100%以上)
	b	中期計画を概ね達成している	概ね中期計画を達成している (80%以上 100%未満)
	c	中期計画を十分には達成していない	中期計画を十分には達成していない (80%未満)
	d	中期計画を大幅に下回っている	業務の大幅な改善が必要
大項目別評価	S	中期計画の達成状況は優れている	特に優れた達成状況にある (評価委員会が特に認める場合)
	A	中期計画の達成状況は良好である	良好な達成状況にある (すべて b 以上)
	B	中期計画の達成状況は概ね良好である	概ね達成している (b から a の割合が 80%以上 100%未満)
	C	中期計画の達成状況はやや不十分である	十分には達成していない (b から a の割合が 80%未満)
	D	中期計画の達成状況は不十分である	業務の大幅な改善が必要 (評価委員会が特に認める場合)
全体評価		中期計画の達成状況は優れている	中期計画全体の達成の状況について、大項目別評価から総合的に勘案し、評価
		中期計画の達成状況は良好である	
		中期計画の達成状況はおおむね良好である	
		中期計画の達成状況はやや不十分である	
		中期計画の達成状況は不十分である	

※「評価の目安」は、評価に当たり判断の目安を示したものであり、実績・成果の水準に加え、計画の難易度、外的要因、取組の経緯・過程等、総合的に勘案して評価する。

Ⅱ 全体評価

1 評価結果

中期計画の達成状況は良好である

○評価結果の概要

長野県立大学は、「長野県の知の礎となり、未来を切り拓くリーダーを輩出し、世界の持続的発展を可能にする成果を発信すること、人類のより良い未来を創造し、発展させる大学を目指す」との理念のもと、「リーダー輩出」「地域イノベーション」「グローバル発信」という3つの使命を掲げ、平成30年度に設立された。

第1期中期目標期間においては、長野県立大学の特色である1年次全寮制、全員参加の海外プログラムといった先進的な教育プログラムやソーシャル・イノベーション創出センターを通じた地域イノベーションへのかかわりなどを積極的に行ってきた。

特に優れた実績としては、まず、ソーシャル・イノベーション創出センターが中心となり、地域連携を県内広く活発に展開させていることが挙げられる。特に、県内の自治体、学校、企業、団体などとの15の連携協定等の締結、学生が村に滞在して住民との交流を通しての地域活性化プロジェクト、未来政策アイデアコンペティションの開催など大学と社会との連携の新たな展開を行っていることを評価する。

また、キャリア形成や就職に関するきめ細やかな対策が継続的に実施され、第1期生が卒業した令和3年度から令和5年度まで3年連続で就職率が100%であったことを評価する。今後も就職

率100%の維持に尽力いただくとともに、県立大学であるため、県内就職率の向上に努めていただきたい。

一方で、英語教育において、学生の英語力の全体的な底上げがなされ、2年次修了時の平均点は向上しているものの、2年次修了時までに全学生がTOEIC600点以上、平均点700点以上を目指すという中期計画に掲げた目標は未達成である。2年次終了時に留まらず、在学4年間を通して、英語力を向上させる教育目標や機会の提供を検討いただきたい。

また、研究においては科学研究費の毎年度新規申請率80%以上という目標が達成されていない状況である。県立大学は長野県のシンクタンクとしての役割を期待されているため、県の政策と関連した研究への取り組みや、県のデータの県立大学への共有・研究への活用など、相互連携を深め、より良い長野県の実現に向けて取り組んでいただきたい。

第1期中期目標期間の全体評価としては、6年間の大半の期間が新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けたものの、中期目標及び中期計画の達成に向けて教職員が一丸となって取り組み、達成状況は良好であると評価するものである。

今後は、長野県立大学の理念の実現を目指し、第1期目標期間の成果と課題を踏まえて、理事長・学長以下教職員が一丸となり第2期中期目標・中期計画の達成に向けて認識を共有して取り組まれることにより、長野県の「知の拠点」として大学の使命を果たされることを期待する。

Ⅲ 項目別評価

(i) 大項目別評価結果（一覧）

評価委員会における小項目別評価に基づく大項目別評価の状況は以下のとおりである。小項目数は60項目となった。

大項目別評価				小項目別評価				
				s	a	b	c	d
1	1 教 育	(1) 人材育成の方向	A	0	10	1	0	0
2		(2) 入学者の受入れ	A	0	7	0	0	0
3		(3) 教育の質の向上	A	0	6	0	0	0
4		(4) 学生への支援	A	2	7	0	0	0
5	2	研究	B	0	4	0	1	0
6	3	地域貢献	A	1	4	0	0	0
7	4	国際交流	A	0	2	0	0	0
8	5	業務運営	A	0	6	0	0	0
9	6	財務	A	0	2	0	0	0
10	7	自己点検・評価	A	0	2	0	0	0
11	8	その他業務運営	A	0	5	0	0	0
項目数合計			11	3	55	1	1	0
割合（％）				5	91.6	1.7	1.7	0

【大項目別評価の目安】（実施要領：別表2より）

- S：特に優れた達成状況にある（評価委員会が特に認める場合）
- A：良好な達成状況にある（すべてb以上）
- B：概ね達成している（bからaの割合が80%以上100%未満）
- C：十分には達成していない（bからaの割合が80%未満）
- D：業務の大幅な改善が必要（評価委員会が特に認める場合）

60の小項目中、s（特に優れた達成状況にある）が3項目、a（良好な達成状況にある）が55項目、b（概ね達成している）が1項目、c（十分には達成していない）が1項目となった。

(ii) 大項目別評価

1	教育に関する事項 (1)人材育成の方向
A	中期計画の達成状況は良好である

11個の小項目中、10項目がa（良好な達成状況にある）、1項目がb（概ね達成している）と認められ、大項目評価はAとなった。

1の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	10	1	0	0	11
	割合（％）	0	90.9	9.1	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	10	1	0	0	11
	割合（％）	0	90.9	9.1	0	0	100

▽評価をする事項

- ・目標達成のため種々の具体的な対応がなされ、TOEIC 平均点を伸ばしたことを評価する。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・英語集中プログラムについて、入学者数によって少人数クラスの維持に影響が出ないように、引き続き少人数教育の実現に尽力いただきたい。
- ・海外プログラムについては、特別な事情を除き、原則現地渡航を徹底いただき、渡航による海外プログラムの参加率100%の実現を

目指していただきたい。また、そのための経済的支援等について検討いただきたい。

- ・ TOEIC の点数については目標値に達しなかった。2 年次終了時に留まらず、在学 4 年間を通して、英語力を向上させる教育目標や機会の提供を検討いただきたい。

2	教育に関する事項 (2) 入学者の受入れ
A	中期計画の達成状況は良好である

7 個の小項目中すべてが a (良好な達成状況にある) と認められ、大項目評価は A となった。

2 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	7	0	0	0	7
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	7	0	0	0	7
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100

3	教育に関する事項 (3) 教育の質の向上等
A	中期計画の達成状況は良好である

6 個の小項目中すべてが a (良好な達成状況にある) と認められ、大項目評価は A となった。

3 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	6	0	0	0	6
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	6	0	0	0	6
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100

4	教育に関する事項 (4) 学生への支援
A	中期計画の達成状況は良好である

9 個の小項目中、2 項目が s (特に優れた達成状況にある)、7 項目が a (良好な達成状況にある) と認められ、大項目評価は A となった。

4 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	2	7	0	0	0	9
	割合 (%)	22.2	77.8	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	2	7	0	0	0	9
	割合 (%)	22.2	77.8	0	0	0	100

▽評価をする事項

- ・ ソーシャル・イノベーション創出センター等を中心に、学生と地域の連携が生まれており、地域の課題解決に向けて学問を実践されていることを評価する。
- ・ キャリア形成や就職に関するきめ細やかな対策が継続的に実施され、3 年連続で就職率が 100%であったことを評価する。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・ 参加した学生の満足度が高く、折角の機会であるため、より多く

の学生が参加するように働きかけていただき、より効果の高い象山未来塾にしていきたい。

- ・今後も就職率 100%の維持に尽力いただくとともに、県立大学であるため、県内就職率の向上に努めていただきたい。

5	研究に関する事項
B	中期計画の達成状況は概ね良好である

5 個の小項目中、4 項目が a（良好な達成状況にある）、1 項目が c（十分には達成していない）と認められ、大項目評価は B となった。

5 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	4	0	1	0	5
	割合（%）	0	80.0	0	20.0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	4	0	1	0	5
	割合（%）	0	80.0	0	20.0	0	100

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・科学研究費補助金の継続者を除く新規申請率は目標値に達していない。県立大学は長野県のシンクタンクとしての役割を期待されているため、県の政策と関連した研究への取り組みや、県のデータの県立大学への共有・研究への活用など、相互連携を深め、より良い長野県の実現に向けて取り組んでいただきたい。

6	地域貢献に関する事項
A	中期計画の達成状況は良好である

5 個の小項目中、1 項目が s（特に優れた達成状況にある）、4 項目が a（良好な達成状況にある）と認められ、大項目評価は A となった。

6 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	4	0	0	0	5
	割合（%）	20.0	80.0	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	4	0	0	0	5
	割合（%）	20.0	80.0	0	0	0	100

▽評価をする事項

- ・ソーシャル・イノベーション創出センターが中心となり、地域連携を県内広く活発に展開させている。特に、県内の自治体、学校、企業、団体などとの 15 の連携協定等の締結、学生が村に滞在して住民との交流を通しての地域活性化プロジェクト、未来政策アイデアコンペティションの開催など大学と社会との連携の新たな展開を行っていることを評価する。

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・参加した学生の満足度が高く、折角の機会であるため、より多くの学生が参加するように働きかけていただき、より効果の高い象山未来塾にしていきたい。（再掲）

7	国際交流に関する事項
A	中期計画の達成状況は良好である

2 個の小項目すべてが a（良好な達成状況にある）と認められ、大項目評価は A となった。

7 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	1	0	0	0	2
	割合（%）	50	50	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

8	業務運営に関する事項
A	中期計画の達成状況は良好である

6 個の小項目全てが a（良好な達成状況にある）と認められ、大項目評価は A となった。

8 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	6	0	0	0	6
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	6	0	0	0	6
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

9	財務内容に関する事項
A	中期計画の達成状況は良好である

2 個の小項目全てが a（良好な達成状況にある）と認められ、大項目評価は A となった。

9 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

10	自己点検・評価及び情報の提供に関する事項
A	中期計画の達成状況は良好である

2 個の小項目全てが a（良好な達成状況にある）と認められ、大項目評価は A となった。

10 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	2	0	0	0	2
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

11	その他業務運営に関する事項
A	中期計画の達成状況は良好である

5 個の小項目全てが a（良好な達成状況にある）と認められ、大項目評価は A となった。

11 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▼課題となることや今後の展開に期待すること

- ・教職員の健康保持に対する意識を高め、健康診断の受診率が 100% となるように尽力いただきたい。

（参考）第一期中期目標期間大項目別評価結果一覧

大項目			年度評価				見込 評価	年度評価		期間 評価
			H30	R1	R2	R3		R4	R5	
1	1 教 育	(1) 人材育成の方向	A	B	B	B	B	B	B	A
2		(2) 入学者の受入れ		A	A	A	A	A	A	A
3		(3) 教育の質の向上		A	A	A	A	A	A	A
4		(4) 学生への支援		A	A	A	A	A	A	A
5	2 研究		A	B	B	B	B	B	B	B
6	3 地域貢献		S	S	A	A	A	A	A	A
7	4 国際交流		A	A	A	A	A	A	A	A
8	5 業務運営		B	A	A	A	A	A	A	A
9	6 財務		A	A	A	A	A	A	A	A
10	7 自己点検・評価		A	A	A	A	A	A	A	A
11	8 その他業務運営		A	A	A	A	A	A	A	A
項目数合計			8	11	11	11	11	11	11	11

参考意見

評価結果報告書【資料編】のコメントには記載していないものの、法人運営全般の改善や教育・研究の質の向上を目的として、法人への期待や要望、今後参考となる事項について「参考意見書」としてまとめた。

○評価の経緯

令和6年6月28日	「公立大学法人長野県立大学の第1期中期目標の期間における業務の実績に関する報告書」の公表・提出（法人）
7月16日	公立大学法人長野県立大学評価委員会法人ヒアリング ・業務実績報告書についての評価委員からの質問に対する法人からの説明、質疑応答
9月24日	第5回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討 ・大項目・全体評価の検討
12月11日	第6回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・評価結果報告書の検討
●月●日	評価委員会から知事へ「公立大学法人長野県立大学第1期中期目標の期間における業務の実績に関する評価結果報告書」の提出

○公立大学法人長野県立大学評価委員会委員

（五十順、敬称略）

職	氏 名	役 職 名
委員長	山沢 清人	信州大学 名誉教授
委 員	伊藤 かおる	(株) コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長
委 員	久保田 明雄	久保田法律事務所 弁護士
委 員	清水 さゆり	高崎経済大学 経済学部国際学科 教授
委 員	山浦 愛幸	(一社) 長野県経営者協会 名誉会長 (株) 八十二銀行 顧問